

# 『文学部・人文学研究科ファクトブックⅡ』

## (沿革・構成編)

---

1. 沿革・設置目的	・・・ P 1	9. ミッション <small>(教育研究上の目的・設置の趣旨)</small>	・・・ P 6
2. 研究科長・学部長	・・・ P 2	10. ディプロマ・ポリシー	・・・ P 7
3. 副研究科長	・・・ P 2	11. アドミッション・ポリシー	・・・ P 8
4. 構成	・・・ P 3	12. カリキュラム・ポリシー	・・・ P 9
5. 取得可能な学位	・・・ P 5	13. 教育上の取り組み	・・・ P 9
6. 専任教員数	・・・ P 6	14. 学生に関すること	・・・ P 9
7. 予算規模	・・・ P 6	15. 就職	・・・ P 9
8. 校地・校舎等の状況	・・・ P 6	16. 教育研究の活動状況等	・・・ P 10

## 1. 沿革・設置目的

- ◆大正 12 (1923) 年 官立姫路高等学校設立
- 《設置目的》
- 男子の高等普通教育を完成し、特に国民道徳の充実に努める。高度な教養を身に付けた「紳士」、高い識見を備えた指導的人物を育成する。
- ◆昭和 15 (1940) 年 官立神戸商業大学予科設立（昭和 19 年官立神戸経済大学予科に改称）
- 《設置目的》
- 商業大学における教育を有効ならしめるため、国民生活に必要な一般教養とともに、商業教育に必要な基礎学科の教育を行い、また商業教育に必要な闊達進取海外発展の気風、開拓的精神を少壮期に涵養する。大学教育と接続することにより、受験勉強に患わされることなく、実力の涵養、品性の陶冶に努めることができる。将来の方針を早期に決定させ、優秀な人材を早期に実業界に提供することができる。
- ◆昭和 24 (1949) 年 神戸大学文理学部文科設置
- 《設置目的》
- 官立姫路高等学校と神戸経済大学予科を基礎として成立。
- 日本の文化的水準の立ち後れを回復し、世界的な文化水準に達するため、それまでの学界・教育界が応用的学問・商業的学問を重視してきた弊風を改め、基礎的な学問の探究を極め、科学的精神を身に付けた健全な市民を育成する。
- ◆昭和 29 (1954) 年 神戸大学文学部設置（文理学部を文学部と理学部とに分離）
- 《設置目的》
- 大学の使命達成のため、学術の研究と学生の教育に一段の努力をいたし、もって文化の向上に貢献する。
- ◆昭和 43 (1968) 年 神戸大学大学院文学研究科（修士課程）設置
- 《設置目的》
- 学部における一般的・専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を修め、哲学、史学及び文学における理論と応用の研究能力を養う。
- ◆昭和 55 (1980) 年 神戸大学大学院文化学研究科（博士課程）設置
- 《設置目的》
- 従来ともすれば閉ざされた各専門領域において個別的・総合的に解明されてきた人間文化を、その構造と社会性の両側面から総体として体系的・総合的に解明する。かくして、文化に関する高次の広い識見と展望をもって、流動する様々な社会的・文化的諸課題に柔軟に対応しうる能力を身に付け、さらに研究機関等においてその学問研究を進化させ、あるいは社会に出て社会文化・社会教育等の高度化・普及の

ために指導的役割を果たす人材を育成する。

◆平成13(2001)年

神戸大学文学部の哲学科・文学科・史学科の3学科を人文学科1学科に改組

《設置目的》

めざましい技術革新、世界的規模における急速な経済的・政治的変動のために、文化共同体における価値規範の解体、社会的共通感覚の喪失が引き起こされている。こうした中で、科学技術・経済の発展に対する文化的教養の跛行性をただし、全社会敵規模における文化的教養を再構築し、健全な社会人を養成するため、①人間と社会の原理を探究し現実的諸問題の解決に資する、②人間と社会の歴史ダイナミズムを明らかにし将来を展望する、③技術や制度など社会のハード面を支える人間文化というソフト面を創造することを目的とする。

◆平成19(2007)年

神戸大学大学院文学研究科・文化学研究科を改組し

人文学研究科(博士課程前期課程・後期課程)を設置

《設置目的》

学問の伝統を重んじて人類の知的遺産である古典に立ち返り、蓄積された人類の歴史的英知を基盤として、現代社会の問題に取り組みうるような、真に人文学的素養に基づき現代社会の要請に応えうる人材を養成する。そのために、大学院教育の組織的強化を図り、各学域の高次の専門性と総合性を発展させて研究者養成のためのシステムを構築するとともに、人文学的素養に優れ、現代日本の課題に対処できる人材を育成して知識基盤社会の形成に寄与する。

## 2. 研究科長・学部長 (H27.5.1現在)

◆増本 浩子 (専門:ヨーロッパ文学)

任期:1期目 (H27.4.1 ~ H29.3.31)

## 3. 副研究科長 (H27.5.1現在)

◆山本 秀行 (専門:英米文学)

任期:2期目 (H26.4.1 ~ H28.3.31)

◆市澤 哲 (専門:日本史学)

任期:1期目 (H27.4.1 ~ H29.3.31)

## 4. 構成 (H27.5.1 現在)

### ◆文学部

学科名	入学定員	備考
人文学科	115	
合計	115	(3年次編入 若干名)

### ◆人文学研究科

専攻名	入学定員		備考
	(M)	(D)	
文化構造	20	8	
社会動態	30	12	
合計	50	20	

### ◆部局内インスティテュート

#### ○日本文化社会インスティテュート

平成 26 (2014) 年 4 月 1 日 設置

目的：日本文化、社会に関する教育・研究、および日本における人文学の教育・研究を、国際交流を通じて深化・発展させること。また、神戸大学が受け入れた留学生を対象に、部局を越えた日本文化・社会の教育プログラムを創設すること。

業務：①頭脳循環プログラム、②神戸オックスフォード日本学プログラム(KOJSP)、③日本語日本文化教育プログラム、④グローバル人材育成などの関連諸事業を統括するとともに、上記の目的を実現するための、国際的なシンポジウムの企画や新たなプロジェクトの立ち上げを行なう。また、日本文化資料室や古典籍データベース構築事業を通じ、日本の文化や歴史に関する高度な学問研究を推進・支援する。

### ◆部局内センター

#### ○海港都市研究センター

平成 17 (2005) 年 4 月 1 日 設置

目的：東アジアにおける国境を越える人の移動、異文化との交流による社会文化の変容について研究するための国際的なネットワークを構築すること

業務：①海外拠点大学(中国・台湾・韓国)と共同で研究・資料情報ネットワークを立ち上げること、②神戸をはじめとした東アジアにおける海港都市の歴史的展開、異文化交流、東アジアの心象形成などに関する資料の整理と公開をすること、③海外拠点大学と共同で若手研究者を育成するために、大学院生による研究交流を推進すること、④紀要『海港都市研究』の発行

○地域連携センター

平成 14 (2002) 年 11 月 30 日設置

目的：阪神・淡路大震災以来の地域貢献活動を踏まえ、大学が県内各地の歴史資料の保全・活用や歴史遺産を活かしたまちづくりを、自治体や地域住民と連携して支援していくこと

事業：①歴史文化を生かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力、②災害時の歴史資料の救済・保全、③地域歴史遺産を活用できる人材の育成、④地域の歴史文化をめぐる情報の共有や交流の促進、⑤年報『LINKー地域・大学・文化』の発行

**◆部局付属の教育研究組織**

○倫理創成プロジェクト

平成 14 (2002) 年 4 月 1 日設置

目的：人文学における先端的学際研究として「知識基盤社会に相応しい大学院教育」を目指し、グローバル化と科学技術時代における新しい倫理規範を研究し、21 世紀の倫理創成の可能性を学際的に探求すること

事業：①E S D コースおよび人文学研究科共通科目の実施、②倫理創成研究会の運営、③『21 世紀倫理創成研究』の発行

**◆関係する大型研究プロジェクトの遂行上不可欠な組織**

○地域連携センター

平成 14 (2002) 年 11 月 30 日設置

目的：日本学術振興会の科学研究費補助金基盤研究 (S) に採択された「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」の研究を推進すること

業務：上記の部局内センターである「地域連携センター」の業務のとおり

○地域歴史文化連携コンソーシアム (事務局は、人文学研究科地域連携センター内)

平成 22 (2010) 年 6 月 28 日設置

目的：文部科学省より特別経費の交付を受けた特別研究プロジェクト事業「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」(平成 22 年度～24 年度)を推進すること

業務：①地方自治体と個別に行ってきた地域連携事業を相互調整し、全国のモデルとなる地域歴史遺産の保全活用の実践的研究を深化させつこと、②地域連携事業の場を学生の教育フィールドとして利用するとともに、地域歴史文化を次世代へ継承するため、社会人も含めた体系的な人材教育をおこなうこと

◆関係する学内共同利用施設等○留学生センター

平成5（1993）年設置

目的：外国人留学生のための日本語・日本事情教育、修学・生活上のアドバイジング、学生交流の推進ならびに、そのための調査研究を行うこと

業務：留学センター所属教員のなかの数名が人文学研究科の担当教員となり、大学院教育の一翼を担っている。文学部において平成24年10月より始まる「神戸オックスフォード日本学プログラム」は留学生センターとの密接な連携のもとに実施される。

○都市安全研究センター

平成8（1996）年5月11日設置

目的：「安全かつ快適な都市の理念を構築し、及びそれを実現するための手法、システムについて総合的に教育研究を行い、もって活力ある都市の創出に寄与する」こと

業務：都市安全研究センターの設立以来、人文学研究科教員や、人文学研究科の関係するプロジェクトなどが、センターの研究業務等と継続的に連携してきた。

○地域連携推進室

平成15（2003）年4月1日設置

目的：大学全体として地域貢献に取り組むための窓口となり、自治体と連携し、本学の人的・物的資源を活用し、個性豊かな地域社会の形成を支援するとともに地域の課題の解決を図り、地域の発展を支援する地域連携事業を推進すること。

業務：人文学研究科所属の教員が室長を務める。そして人文学研究科の関係するプロジェクトや地域連携センターなどが、当該推進室の業務と積極的に連携している。

○震災復興支援・災害科学研究推進室

平成24（2012）年1月24日設置

目的：国立大学法人東北大学との災害科学分野における連携協定に関する協定書に基づき、災害科学分野における学術研究、人材養成及び社会貢献を推進すること

業務：人文学研究科所属の教員が室員となっている。そして人文学研究科の関係するプロジェクトや地域連携センターなどが、当該推進室の業務と積極的に連携している。

## 5. 取得可能な学位

◆文学部

学士（文学）

◆人文学研究科

博士課程前期課程：修士（文学）

博士課程後期課程：博士（文学）、博士（学術）

**6. 専任教員数**

(H27. 5. 1)現在

→文学部・人文学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり**7. 予算規模**

平成 26 年度

運営費交付金等 826 百万円

外部資金 172 百万円

総計 998 百万円

※1 各部局における予算執行額を予算規模としている（ただし、設備整備費補助金・施設整備費補助金及び目的積立金は除く）。

※2 百万円未満は四捨五入して計上。

**8. 校地・校舎等の状況****◆建物の延べ床面積**8983.76 m<sup>2</sup>**◆教室等**

・講義室 6 室、 演習室 15 室、 実験実習室 2 室

情報処理学習施設 1 室（補助職員 0 人）、語学学習施設 0 室（補助職員 0 人）

**◆専任教員研究室**

60 室

**9. ミッション（教育研究上の目的、設置の趣旨目的）****◆文学部**

広い知識を授けるとともに、言葉及び文化、人間の行動並びに歴史及び社会に関する教育研究を行い、人間文化及び現代社会に対する深い教養、専門的知識、柔軟な思考力並びに豊かな表現能力を有する人材を養成することを目的としています。

**◆人文学研究科**

人類がこれまで蓄積してきた人間や社会に関する古典的な文献の原理論的研究とフィールドワークを重視した社会文化の動態的分析を通じ、新たな社会的規範と文化の形成に寄与する教育研究を行っています。

### ○文化構造専攻

人類がこれまで蓄積してきた人間や社会に関する古典的な文献の原理的研究を通じ、新たな社会的規範と文化の形成に寄与する教育研究を行うとともに、前期課程においては、人文学の基礎的な方法を継承しつつ、個々の文化現象の現代的意味を問うことのできる基礎的な能力を備え、人文学を知識基盤社会に活かすことのできる人材を養成することを目的とし、後期課程においては、人文学の高度な研究法を継承しつつ、新たな社会的規範と文化の形成に寄与できる能力や、共同研究を企画し、組織する能力を持つ人材を養成することを目的としています。

### ○社会動態専攻

フィールドワークを重視した社会文化の動態的分析を通じ、新たな社会的規範と文化の形成に寄与する教育研究を行うとともに、前期課程においては、社会文化の動態的分析の基礎的な能力を備え、人文学を知識基盤社会に活かすことのできる人材を養成することを目的とし、後期課程においては、社会文化の高度な動態的分析能力を備え、新たな社会的規範と文化の形成に寄与できる能力や、共同研究を企画し、組織する能力を持つ人材を養成することを目的としています。

## 10. ディプロマ・ポリシー

### ◆文学部

神戸大学文学部は、人類の文化的営みの蓄積としての人文学を、古典を通して深く理解するとともに、社会的対話によりそれを実践していくことのできる人材を育成することを教育上の目的としている。また、徹底した少人数教育により、個々の学生の好奇心に応え、自ら問題を設定し、解決するスキルを学生に伝授することを目指している。

この目標達成に向け、文学部では、以下に示した方針に従って学位を授与する。

- ・文学部の学生は、所定の単位（卒業論文を含む）を修得しなければならない。卒業論文の単位修得のためには、指定の期日までに卒業論文を提出し、卒業論文試験に合格することを要する。
- ・文学部に在籍する学生が修了までに達成を目指す目標は、次の通りとする。
- －各自の好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことで、人文学の幅広い知識と深い洞察力を身につける。
- －人文学共通の問題・課題を、人類の知的営みの蓄積である古典を通じて理解する。
- －文化・言葉・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力を身につける。

### ◆人文学研究科

#### ○博士課程前期課程

人文学研究科は博士課程前期課程に次のような学生を求めています。

1. 人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人
2. 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を志す人



3. 社会の一員としての自覚を持って、自らの学術研究を社会との係わりで展開していく意欲を持っている人

### ○博士課程後期課程

人文学研究科は博士課程後期課程に次のような学生を求めています。

1. 人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人
2. 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を行って研究者を志す人
3. 研究者としての自覚をそなえ、自らの学術研究を学際的かつ国際的な幅広い視野のなかで展開していく意欲を持っている人

## 11. アドミッション・ポリシー

### ◆文学部

文学部では、人間が作り上げてきた文化に対する好奇心を高め、多様な角度から人間存在の深みに光をあてる教育研究を行っています。各自の好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことで、人文の幅広い知識と深い洞察力を身につけた人材を育成することを目標にしています。

### ○文学部の求める学生像

1. みずみずしい感受性と想像力を持っている学生
2. 言葉や文化、人間の行動、歴史や社会に対する幅広い関心と好奇心を持っている学生
3. 基礎学力、とりわけ論理的思考力、日本語および外国語の読解力・表現力、情報リテラシーを備えている学生
4. 既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、探求していくことができる学生

### ◆人文学研究科

#### ○博士課程前期課程

人文学研究科は博士課程前期課程に次のような学生を求めています。

1. 人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人
2. 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を志す人
3. 社会の一員としての自覚を持って、自らの学術研究を社会との係わりで展開していく意欲を持っている人

#### ○博士課程後期課程

人文学研究科は博士課程後期課程に次のような学生を求めています。

1. 人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人
2. 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を行って研究者を志す人

3. 研究者としての自覚をそなえ、自らの学術研究を学際的かつ国際的な幅広い視野のなかで展開していく  
意欲を持っている人

## 12. カリキュラム・ポリシー

→文学部・人文学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

## 13. 教育上の取組

- ◆多様な学習の機会 (英語授業, ボランティア活動, 海外留学等)
- ◆ボランティア活動, 海外留学の教育的効果を高めるための、  
単位認定以外の特別な取組 (例えば TOEIC 受験など)
- ◆ダブルディグリープログラム受入れ・派遣学生数
- ◆協定に基づく海外留学者数
- ◆4月以外の入学者状況
- ◆ナンバリング導入状況

→文学部・人文学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

## 14. 学生に関すること

- ◆入学者数等 (H27.5.1 現在) (入学状況等調査のデータを引用)
- ◆留学生の出身地域内訳
- ◆日本人学生の海外派遣人数内訳

→文学部・人文学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

## 15. 就職

- ◆就職率 (各年5月1日現在、5年分、就職率=就職者/就職希望)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
学部	87.0%	74.3%	80.8%	81.7%	81.5%
博士前期課程	67.7%	45.2%	58.6%	62.5%	42.4%

博士後期課程	-	26.3%	31.6%	23.5%	50.0%
--------	---	-------	-------	-------	-------

◆就職先

◆博士課程後期課程の就職先 (H27.5.1 現在)

◆日本国内における外国人留学生の就職先

→文学部・人文学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

## 16. 教育研究上の活動状況等

16-1 科研費等

- ◆科学研究費補助金(補助金分・基金分)
- ◆共同研究, 受託研究, その他外部資金

→文学部・人文学研究科ファクトブックⅢ  
(データ・資料編)のとおり

16-2 研究業績の状況

◆主な業績数

16-2 その他の教育研究上の活動状況等

◆海外において通算して1年以上教育研究に従事した日本人教員の在籍状況

13人

◆国外で学位を取得した日本人教員の在籍状況

Master/修士 4人                      PhD./博士 10人

◆ベンチャーの実績

特になし